

# ニュースレターくもと News Letter Kumamoto

冬  
Winter  
2013  
vol. 96

■ Publisher : Kumamoto International Foundation  
KCIC 4-18 Hanabata-cho, Chuo-ku, Kumamoto City, 860-0806  
Tel : 096-359-2121 e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp  
URL : http : //www.kumamoto-if.or.jp/

■ 発行 : 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団  
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館  
Tel : 096-359-2121  
e-mail : pj-info@kumamoto-if.or.jp  
URL : http : //www.kumamoto-if.or.jp/



## CONTENTS



新年のごあいさつ……………	1P	ちょっといわせてはいよ……………	5P
多文化共生月間について……………	2P	世界を知る……………	6P
多文化共生シンポジウム……………	3P	未来のために……………	7P
ボラキャン アレック・ディクソン賞 受賞報告……………	4P	ちょっと日本語/きふプロ……………	8P

## 2013年 新年のごあいさつ さらに多くの出会いがありますように

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団  
専務理事 重浦 睦治

新年あけましておめでとうございます。旧年中は熊本市国際交流振興事業団の活動に対し多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。事業団は昨年4月、一般財団法人として新しく船出し、私は7月、その専務理事に就任、兼ねて、国際交流会館の館長職を務めることになりました。本日は、新米館長の目を通して事業団(会館)の活動の一端をお伝えしようと存じます。

**およそ20年前** 私の国際交流との出会いは、市職員として国際室に勤務した時で、1992年5月のハイデルベルク市との友好都市締結、1994年9月に落成する国際交流会館の基本構想策定に携わりました。当時は、海外友好姉妹都市交流が主流で、それも行政が前面に出るものであったと記憶しています。

**時を経て今は** 市民による地域に根ざした交流が日常となり、友好姉妹都市交流もより身近な内容となっています。たとえば、「食&文化を楽しもう」は、友好姉妹都市のある中国・アメリカ・ドイツ・韓国の料理をその国の人の指導で作る、食文化を学ぶもの。ドイツのことわざに「リーベ ゲートドゥルヒ デン マーゲン(愛は胃袋を通して)」があるそうです。手作りのおいしい料理は、きっとその国への愛と理解を芽生えさせるでしょう。

会館はまた日本文化に出合える場所でもあります。正面玄関

のお稽古で着物の着付けや礼儀作法を学んだり、茶道を体験しているのです。

熊本で暮らす上で必要な言葉を学びたい人には、「くらしのほんごくらぶ」がお勧めです。ボランティアに支えられ10年間続いており、水曜日と日曜日には1対1での熱のこもった学習が2階フロアで繰り広げられます。



会館は街中のオアシスとして一息入れながら、情報や新しい友達に気軽に会える広場でもあります。1階ロビーには

国内外の新聞、雑誌が備えられ、また、情報ボードは語学の講師・生徒募集、サークルへの勧誘などに利用できます。テーブルを囲んで様々な国の人が談笑する姿は国際交流が本当に身近になったと感じさせるものです。

**そしてこれから** 昨年10月、アジアのめまぐるしい経済成長の現実を知るために「アジア・ビジネス・フロンティア・セミナー」が熊本市により開催され、インドネシア、ラオス、ベトナム各大使館の公使による各国の現状発表、熊本の企業からの事例紹介、ジェトロやJICAなどの事業紹介が行われ、引き続き会場の参加者も交えた情報交換会が設けられました。このビジネス面での出会い創りは事業団に求められ取り組みを示唆するものでした。

さて、これらは活動のほんの一部です。皆様が御自身で会館の活用法と新たな出会いを見いだされることを願っております。



を入れて左手の生花に目をとめられたことがありますか?

池坊熊本銀杏支部の先生方と小原流の先生に一年を通して折々の季節を演出いただいているものです。私も時折、花を生けていらっしゃる先生にその日の思いや花材をお尋ねし、華道の世界に触れる機会を得ています。第二、第四土曜日の午後には熊本県日本舞踊協会との共催事業「日本文化体験子ども教室」があります。幼児から中学生までが、浴衣を着ての日本舞踊

## 多文化共生月間について

「多文化共生」という言葉をご存じですか？多文化共生とは、日本人、外国人両市民が、お互いの文化の違いを理解、尊重し、同じ地域住民として助け合いながら、共に暮らしやすい社会を作っていくことを言います。熊本市国際交流振興事業団では、2月を「多文化共生月間」と定め、皆様に多文化共生について考えていただく機会とさせていただきます。

国境を越えた人・物・情報の移動は、世界各地で行われており、文化やライフスタイルの多様性を生んでいます。近年熊本でもグローバル化が進み、外国人の姿を目にし、彼らと職場や学校、地域を通じて関わりあいになる機会が多くなってきました。日本における外国人登録者数は、2008年に約220万人、総人口の1.74%を記録しましたが、その後リーマンショックを始めとする経済不況や、東日本大震災の発生により、2010年には約210万人まで減少しました。一方、熊本市の外国人登録者数は、震災の影響で一時的な減少はあったものの、2006年の3,860人から2011年の4,241人へと、ゆるやかに増加しています。

一口に「外国人市民」といっても、その国籍、言語、宗教、文化や育った環境や、来日した理由も様々です。例えば熊本には中国、韓国・朝鮮、フィリピン出身の人々が多く暮らしており、近年ベトナムをはじめとするアジア諸国から、技能実習を目的に来日し、働きながら技術を身につけようとする人々も増えてきています。留学、国際結婚、家族滞在、仕事など、在留資格によって、ライフスタイルは大きく異なります。ただ、全体に共通して言えるのは、日本で暮らす在住外国人の多くの方々が、様々な「壁」に直面しているということです。日本語能力の不足によって生じる問題、日本の文化や制度を理解していないことによるすれ違いや、外国人であるという理由で日本人市民との間に生まれる心理的な隔たりなど、まだ多民族・多文化共生の社会システムが出来上がっていない日本社会では、日本人、外国人両方がストレスを感じる場面が多いのが現状です。

しかし日本人と外国人、別々のコミュニティに別れて暮らすのではなく、在住外国人が地域に受け入れられ、その能力を活かして活性化に貢献することが出来れば、地域全体が文化豊かな生活を送ることが出来ます。こうした外国人受け入れを円滑化させるための仕組みを整えるのは行政の役割ですが、同時に、受け入れる地域住民が、「違い」を理解し、受け入れようとする開けた心を持つことが大切です。多種多様な人々と日本人市民が共に暮らしやすい社会を作っていくという取組が各地で進められていますが、熊本でも様々な団体が日々活動しています。

例えば、国際交流振興事業団では、在住外国人が熊本で

の暮らしに困らない日本語能力を身につける場として、地域のボランティアによる日本語教室「くらしのにほんごくらぶ」を開催しており、武蔵丘、健軍などの地域でも学習が行われています。「くらしのにほんごくらぶ」では日本語学習に加えて、季節ごとに交流行事を行い、在住外国人が日本文化を学んだり、逆に日本人ボランティアが各国の文化について話を聞き、相互理解を深めています。他にも、熊本で子どもを学校に通わせる外国人保護者のために、小学校レベルの漢字を集中的に学習する「かんじのけいこ」、中国帰国者のための日本語教室、日本に来たばかりで全く日本語が分からない外国人のための「初級日本語集中講座」など、各外国人のニーズに合わせた言語支援を行っています。毎年12月に行われる「イヤーエンドパーティー」も、地域に暮らす外国人との国際交流の大切な機会です。異なる言語や文化背景を持った人たちとの出会い、そして交流から、一人ひとりの相互理解と友情が生まれ、その多文化パワーが地域を変えていきます。

このように、地域のつながりを強めることは、自然災害など、いざという時の助け合いネットワークの構築に直結しています。近所に外国人が住んでいれば、地震や洪水の際に「一緒に避難しよう!」と声をかけたり、逆に彼らが子どもや高齢者の手助けをしたりすることもあるでしょう。国籍、老若男女、障害の有無に関わらず、それぞれの持っている力を発揮し、助け合える共生社会を作ることは、地域にとって大きなプラスとなることでしょう。

他にも、学校、国際交流協会、ボランティア活動、イベントや教会など、在住外国人と接する場はたくさんあります。「そういえば、近所に外国人が住んでいたな…」と思いだした方は、思いきって声をかけ、交流を持ってみてください。まだ自分の身の回りにはいないという方は、この多文化共生月間にぜひ知識を深めていただき、多文化共生地域づくりのスタートとしていただきたいと思います。

多文化共生に関するご質問・ご相談は、  
熊本市国際交流振興事業団 多文化共生オフィス  
TEL.096-359-4995(11:00~18:00)  
まで、お気軽にお訊ねください。

## 多文化共生シンポジウム 「国際結婚、熊本での暮らし」



日時：2013年2月16日(土)

開場：午後1時30分／開会：午後2時(午後4時閉会予定)

会場：熊本県立大学

2月は、言語や文化の違いを越え、すべての人が安心して快適に暮らせる社会の実現について考える「多文化共生月間」。恒例となりました多文化共生シンポジウムも、今年で5回目、「国際結婚、熊本での暮らし」をテーマに開催いたします。

1960年代には4、5千件程度だった国際結婚も、2000年代には4万件を越え、今では日本での婚姻数のうち、20組に1組を国際結婚カップルが占めると言われています。グローバル化が進むにつれて増加していく国際結婚、自分の家族や近所に、外国人市民が加わった場合、地域の一員として、私たちはどうやって多文化共生に貢献したらいいのでしょうか。

第一部では、自身も国際結婚ベテランカップルである、新潟県長岡市国際交流センター長の羽賀友信氏をお招きして、日本全国の国際結婚の傾向、課題につい

てお話ししていただきます。

また第二部では、言語や文化の違いを越え、国際結婚という形で愛を育んできた、熊本にお住まいの3組のカップルにお越しいただき、多様なテーマについてディスカッションしていただく予定です。

結婚前に立ちは大かたる制度や文化の壁を、どうやって乗り越えてきたのか。

国際結婚で生まれた子どもたちの文化的・言語的アイデンティティは、どちらの社会に強く属するのか。

そして外国人市民が、日本で老い、死を迎えるとき、どのような問題が起こるのでしょうか？

政令指定都市となり、国際化が進んでいく熊本市で、外国人市民と共に、全ての人々が暮らしやすい社会を作るにはどうしたらいいのか、在住外国人の生の声を聞きながら、皆様と一緒に考えていきます。

### 多文化共生写真展2013

日時：平成25年2月4日(月)～2月28日(木) 会場：熊本市国際交流会館 1Fエントランス

私たちの身の回りには、どんな外国人が住んでいるのでしょうか？  
熊本に暮らす外国人市民の笑顔と、一人一人からのメッセージを展示します。  
併せて、以前熊本に住んでいた外国人の皆さんからのメッセージ、近況報告もいただきました。  
昔仲良しだったあの人は、今どうしているのか探してみましよう！



## 冬のイベント情報

### ■日本文化体験子ども教室 発表会

◇日時:平成25年1月26日(土)

◇開場:12時/開演:13時

◇会場:熊本市国際交流会館 6Fホール

熊本県日本舞踊協会の先生方の指導のもと、日頃から日本舞踊を練習してきた子どもたちの成果を披露します。特別企画として、着付け・日本舞踊のワークショップ、茶道体験も開催。入場無料、申込は国際交流振興事業団(TEL.096-359-2121)まで。



日本文化体験子ども教室 発表会

### ■春節2013～中国留学生と餃子づくり交流・祝賀会～

◇日時:平成25年2月3日(日)

◇会場:熊本市国際交流会館 4F第3会議室

(第1部)中国留学生との餃子づくり体験⇒午後2時～4時

(第2部)春節祝賀会⇒午後5時～7時

◇定員:80名

(餃子づくり体験は15名程度)参加費は、日本人1,000円、中国人500円。事前にチケット購入が必要です。申込は国際交流振興事業団(TEL.096-359-2121)まで。



NGO協働 SAKURA祭

### ■NGO協働 SAKURA祭

◇日時:平成25年3月23日(土)・24日(日) 午前10時～午後5時

◇会場:熊本市国際交流会館前 公開空地

熊本市内を中心に活動するNGO団体が一堂に会し、グルメ・バザーやワークショップ等を開催します。国際協力やボランティア活動に興味がある人や、外国に興味のある方はぜひご来場ください!素晴らしい発見があるかも?

## 国際ボランティアワークキャンプ 授賞報告 アレック・ディクソン賞授賞式にて

国際ボランティアワークキャンプ(以下ボラキャン)が日本ボランティア学習協会の今年のアレック・ディクソン賞ボランティア学習実践部門を受賞し、



11月23日(金)に和歌山大学で開催された授賞式に第7回ボラキャンの実行委員長である増山雄輝君(文徳高校2年)とともに参加しました。

アレック・ディクソン博士とは第2次世界大戦後のボランティア活動の基礎を作り「世界のボランティアの父」と言われている英国人です。

今回、ボラキャンの受賞理由は、活動の企画・運営を全て高校生が自主的な活動として行っていること、また、スマイルステーションとして年間を通したボランティア情報の交換とボランティア活動への発展が評価されました。

表彰式で受賞スピーチをした増山君は、当初は緊張の様子が見られましたが、第7回ボラキャンのテーマ「Let's

take Action～俺が掲げる君と繋ぐ～」に込めた熱い思いを語ってくれて、会場に集まった大学を始めとする教育関係者から大きな拍手と、その後の懇親会でもボラキャンやボランティア活動に関して様々な質問を受けていました。

今回の授賞式には第7回ボラキャンの実行委員長として参加してもらいましたが、この受賞はボラキャン全体として、実行委員の皆さん、参加された皆さん、そして、これまでのボラキャンを支えていただいた皆さんの協力があったことだと思えます。ボラキャンは今後も活動を続けていき、今まさに、第8回ボラキャンの活動が始まったところです。次回ボラキャンの実行委員会の皆さんはこれを励みとして、また、これまでご協力をいただいた皆さんも今後とも高校生の活動をご支援いただけますようお願い申し上げます。



(Kif担当 下田)

受賞スピーチをする実行委員長・増山君

# ちょっと いわせて はいよ

## イスラム教、ムスリムの暮らし

北インド・パキスタン料理 LAHORI アリ・ジャファール

熊本の皆さん、こんにちは、アリ・ジャファールと申します。私はパキスタンで生まれ、13年前に日本にきました。日本人の妻と、子どもが4人いて、熊本市の下部で「ラホーリ」というカレー料理店を経営しています。私は「ムスリム」つまりイスラム教徒です。皆さんの中には、イスラム教に関するニュースなどを耳にして、「イスラム教って、どんな宗教なんだろう?」と思っている人も多いかもしれませんが。私は今回、一般的なムスリムの暮らしを紹介することで、皆さんに少しでもイスラム教への理解を深めていただければと思っています。



アリ・ジャファールさん(中央)と、ラホーリのシェフたち

「イスラム」という言葉は、アラビア語で「平和」「従順」を表し、ムスリムは、アッラー(アラビア語で「神」)の教えを守って、正しく穏やかに暮らすことを大切にしています。食事、服装、お祈りの習慣など、日本の文化と違う部分がたくさんあります。

まず私たちの食生活についてお話ししましょう。パキスタンでは大人から子どもまで、一日3回カレーを食べます。赤ちゃんも、歯が生えたらナン(カレーといっしょに食べる、パンのようなもの)をかじったり、カレーの中のジャガイモなどの具を、親が一度舐めて辛さを弱め、すり潰したものを食べたりします。市販の離乳食を買う人もいますが、余計な添加物の入っていないシンプルな食べ物を与える方が、健康に良いと考えられています。3歳位になれば、カレーに卵を入れたり、すり潰したジャガイモを混ぜたり甘くして、大人と同じように食事を楽しみます。一日に何回も、チャイ(ミルクティーのような味の、スパイスが香るお茶)を飲むのも、特徴的です。

また、私はうどん、そばなどの和食が好きですが、私たちムスリムは常に「ハラール」に気をつけて食材を選ばなければなりません。「ハラール」とは、イスラム教の教えに則った特別な方法で、敬虔なムスリムは酒、豚肉を食べないのはもちろん、その他の肉でも、「ハラール」で用意されたハラール肉、食品しか食べないのです。例えば、料理酒、みりん、ショートニング、マヨネーズなどが入った料理やお菓子や料理は食べられません。そのため、日本で暮らすムスリムは自宅で料理をすることが多く、子どもたちも学校給食の代わりにお弁当を持っていきます。ハラール肉を出す料理店はまだまだ少ないですが、どこで、どのように作ったか、はっきり表示されるハラール肉は、「安心な



ハラール肉を使ったカレーセット



甘くておいしいチャイ

肉」として近年ムスリム以外の人たちにも人気なんですよ。

ムスリムといえば、他に断食、お祈りの習慣などが良く知られていると思います。「ラマダーン」と呼ばれる断食月には、ムスリムは夜明けから日没まで食べ物はもちろん、水を飲んだり、他人の噂話やけんかなども慎みます。食事は一日2回、午前3時半と日没後です。通常、16歳以上になると断食をします。お祈りは一日5回。パキスタンでは、村のモスクからお祈りを知らせる放送が流れますが、ここ日本では、日の出に基づいて毎日のお祈りの時刻を記した時刻表を使って確認しています。お祈りの時間の時、外出している場合は、スーパーの駐車場の端や、公園、神社などでお祈りをすることもあります。私たちムスリムは地面に跪いて祈るため、自分のお祈り用の敷物を持ち歩いています。もし、持っていない人がいたり、一度にお祈りをするスペースが確保できないときには、交替で使ったりします。5分間程のお祈りの間は、口を利いてはいけません。ただ、お祈りをしている様子を見たり、お祈りの後に話しかけたりするのは大丈夫です。質問して、理解してもらえると、私たちも嬉しいのです。ムスリムは、他の宗教にも興味がありますし、ムスリムでない人々も同じように大切に扱うよう、教えられています。様々な宗教を理解すれば外国に行っても困らないし、色々な友人を作ることができるので、本人にとってプラスになります。また、命を大切に、善い人間になるため努力するようになると思います。日本の学校でも、子どもたちに宗教を教える時間があれば、教育が深まるのではないのでしょうか。

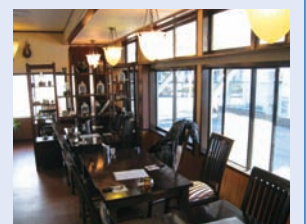
最後に、皆さんに一番お伝えしたいのは、ムスリムにとって、他人に親切にすることがとても大切だということです。皆さんの中には、イスラム教とテロリズムを結びつけた間違った報道を見て、心配に思っている人がいるかもしれませんが、本当は、ムスリムは決して人を殺してはいけないと教えられています。一部の過激派がイスラム教の教えを誤って解釈し、事件を引き起こしていますが、それが元で私たち大部分のムスリムを誤解しないでほしい、と強く思います。ムスリムは、例え全く知らない人でも、女性を守り、お年寄りを助け、旅人を自分の家でもてなします。特に、家に客人があるのは、神様が使いとしてその人を送るからだと言われており、家族や親せき皆で歓迎します。これは、他者に優しくした分、自分も別の場所で親切にされると考えられているからです。日本でも、もっと隣近所や、出会った人々みんなと仲良くすれば、新しい発見や喜びが増えるのではないのでしょうか。

イスラム教のこと、ムスリムのこと、分からないことはたくさんあるでしょう。そんな時は、どうぞ私たちと友達になり、遠慮せずに何でも聞いてください。熊本の皆さんと、もっとお互いに理解しあい、同じ社会に暮らす仲間として協力して生活していくのが、私の願いです。

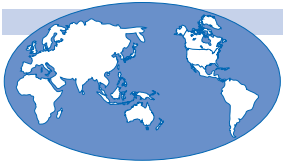
### 北インド・パキスタン料理 ラホーリ

熊本市東区下部3-11-177  
TEL.096-388-1144

熊本市下部「ラホーリ」店内。  
本場のカレーを味わってみませんか?







## 世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流、協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

## こんにちは!新JICA推進員です!

JICAデスク熊本 国際協力推進員 Ohno Ayako **大野 章子**さん

新しくJICAデスク熊本に着任しました国際協力推進員の**大野章子**です。20年ほど前に青年海外協力隊として中米のコスタリカ国にて、2年半ほど活動しました。職種(選考過程での専門分野分類)は美術です。配属先は国立工科大学の工業デザイン科。構成や色彩の講座のほか、インディオ(先住民民族)の天然染料の研究をしました。ラテン社会は、明るく人間性にあふれています。日本とは逆の価値観もあり戸惑うこともありましたが、人生を楽しむという価値観を学びました。

帰国後は、協力隊の訓練所勤務後、地元熊本の専門学校や印刷会社のアートディレクターを勤めました。

そして3年前、今度はJICAのシニア海外ボランティアとして、タイ王国に赴任しました。任地は北部のチェンマイです。職場は「第一地区産業振興センター」。旧ランナー王国である北部8県を管轄しており、約100名が勤務しています(正職員である公務員は3割)。ラッピングやパッケージの指導と、地場産業のデザイン指導が主な要請内容です。



赴任当時:産業振興センターのデスクにて

タイではラッピングのできる人は「技術者」として扱われており、包装紙やリボンを購入後、料金を払って包んでもらうシステムで

す。しかもそのサービスができるのは百貨店くらい。日本と同じく贈答文化があるタイでは、お金をかけないでプレゼントを綺麗に包むというニーズが思った以上にありました。着任早々、大学からの要請で、社会学習の一環としての「ラッピング講座」を開きました。地場産業のデザイン指導では、選出された小・零細企業(主にタイ版一村一品運動の優良企業)に、売れそうな新製品のデザインを提供するというものです。産業振興センターでは、これがサービスとして無料で行われます。

タイの代表的な産品としてシルクを連想される方が多いと思いますが、これはタイで相対的価値の低かったシルクに注目し、産業として成功させた元アメリカ軍人の功績です。通常使用されているのは綿製品。地域や部族により伝承の様様や刺繍があります。この技術を活かしての製品提案ですが、コピー文化のタイでは、見本を提供しそれを真似て作るのが一般的。それがまたコピー文化を生むという悪循環があります。

新しいデザインは提供しますが「なぜこのデザインなのか、なぜこの

商品なのか」、自分たちの技術の特性や他との差別化を意識し自ら考えられるよう、分析やアンケート結果など資料を基に説明し提供しました。提案した商品が店頭で並び喜びと売れ行きがどうなるかのスリルを同時に味わい、やりがいとなりました。



チェンライ県での新商品制作

一方、職場では、昔

ながらの手工芸技術者が、日本の手工芸技術を吸収したいと関心を持っていました。タイに行かれる折は、日本の手工芸品のお土産は喜ばれますよ。タイの人々も手先は器用なので、いろんな技術や植物を利用したエコロジーな文化があります。その良さを失わないで発展してほしいと願っています。



チェンマイは祭りの多い所。パレードのひとつコマです。

さて、昨年11月より前任者から業務を引き継ぎ、JICAの新事業紹介や学校への出前講座、ボランティア事業の紹介などを行っています。国際協力に関心のある方や海外で活動をされるNGOさんなど、JICAがお手伝いできるような案件があればどうぞご相談ください。通常、月～金で熊本市国際交流会館内で勤務しております(イベントによっては週末も出勤。第2・4月曜は会館の閉館日なのでご注意ください)。ひとり事務所なので、外出の時はご伝言をお願いします。

私はふたつのJICAボランティア経験を経て、「グローバルはローカルに通ず」ということを体感しました。熊本の活性化に寄与しつつ、「グローバル」な人材が増えるよう、お手伝いできればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

### JICAデスク熊本

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18  
熊本市国際交流会館内

TEL/FAX:096-359-2130(直通)

E-mail:jicadpd-desk-kumamotoshi@jica.go.jp  
http://www.jica.go.jp

# 未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について  
 専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。  
 今回は多言語化の時代についてご寄稿いただきました。

## 多言語化の時代

私たち日本人が日頃使っている日本語は「国語」といわれる文化が共有されているものであります。しかし来日間もない外国籍市民は文化が共有されておらず、言葉がわからず友人もいないところから「国際語としての日本語」を学ぶ必要があります。「国語」がテキストに準拠して教えられる一方で、「国際語としての日本語」は別名「オンディマンド型学習」といわれる場面に合わせて実践的な文型を学ぶ手法です。指導者は言語通訳の能力だけでなく文化通訳の能力も問われます。この日本語は災害時に非常に有効であり「やさしい日本語」と呼ばれています。イメージがわかりやすく平易な言葉で綴られます。例えば「避難所」は日本人にとって当たり前の言葉ですが、日本以外では、ホテルが避難所になったり、避難所自体がないため理解されません。「やさしい日本語」で「避難所」を表現すると「安全でいろいろなサービスが受けられる所です。」「外国人もいけます。」となります。

英語も私たちが習っているものは欧米の「国語としての英語」ですが、グローバル化の現在では英語を母語としない人々同士のコミュニケーションツールに「国際語としての英語」が必要とされます。キリスト教の価値観だけでなくイスラムやアジアの多信教の価値観が共有される必要があります。いきなり「Hello! How are you?」ではなく、イスラムならば「アッサラーム アレイコム」と相手の母語で挨拶を最初にとると、その後のコミュニケーションが円滑になります。ここにも文化通訳の価値観が重要になってきます。

多文化共生の時代になり、生病老死を多様な文化の物差しで推し量る必要がでてきます。例えば、イスラムは亡くなった時「火葬」にすることは最大の屈辱でありタブーであります。彼らの価値観では最後の審判の日まで土葬の形で肉体を安置する

ことが絶対であり、日本でなくなった場合はエンバーミングと呼ばれる遗体処理を行い納棺の際には大使館員が立会い封をして母国へ輸送するのが一般的です。また食事にも禁忌があり、「ハラール」とよばれる宗教上許されたもの以外は食せません。また一日5回のお祈りの習慣もあります。これらを理解した上で使われる英語が「国際語としての英語」になります。

よく日本人は、自分の文化を説明できないといわれています。単に言葉を知っているだけでは予備知識のない人には伝わりません。そこには相手<sup>そしやく</sup>がわかるように咀嚼する必要があります。例えば明治維新は日本人なら誰でもわかりませんが、外国の人に教える場合には「外国に国を開く立場と、侍の社会を維持する立場で内戦をした時代」と咀嚼しないと伝わりません。今我々に問われている能力は言語通訳と文化通訳のできることです。



筆者：羽賀 友信さん  
 長岡市国際交流センター「地球広場」センター長  
 新潟NGOネットワーク顧問  
 JICA地球ひろば 国際協力サポーター  
 長岡市教育委員、JICA専門家  
 ※当事業団多文化共生アドバイザー

## あなたの企業も一緒に情報発信しませんか!?

この「ニュースレターくまもと」は、当事業団の機関紙として平成7年11月の創刊以来、熊本の国際交流・協力に関する情報を、日本各地の国際交流協会、国際交流・協力機関や市民、在住外国人の方々を中心に幅広く発信し、国際交流・協力に感心を持つ人、開発教育関係の教育者、留学を考えている人、異文化理解に興味を持つ人など、多くの方々にご愛読いただいています。

\*webでも公開しています。( <http://www.kumamoto-if.or.jp/> )

発行:年4回(4月、7月、10月、1月) 部数: 3,000部

配布先:市内の小・中学校、高校、大学、全国の国際交流協会、市内の国際交流・協力団体、当事業団のボランティア登録者及び賛助会員(約500名)、熊本市役所関係機関(区役所、市民センター、公民館等)、熊本市国際交流会館内

広告の種類:1/4ページ(この広告募集のサイズです。)

契約期間及び料金:1/8のおためしサイズ(1回) 5,000円単発(1回) 20,000円、半年契約(2回) 30,000円  
 年間契約(4回) 40,000円

★まずは、1/8のおためしサイズ(1回5,000円)で貴社の情報を発信しませんか!

ちょっと日本語/きふプロ/イベント情報

Japanese Tip  
ちよつと日本語

「で」と「に」と「を」と・・・ニコッ!

NPO法人日本語サポートあさ  
代表 小川 ひろみ さん

「公園で」「公園に」「公園を」の「で」「に」「を」や「私は」「私が」等、もうすっかり文法の説明やら解説やらは言い尽くされているテーマですが、そのような定義や理屈を日本語学習者に説明しても実際に使えるようになりませんし、知識でわかっているにもかかわらず実際の場面ではそのような知識はあまり役に立たないものです。実際、私たち日本語母語話者はそれほど、注意深く助詞の意味を明確に理由づけて使ったり、はっきり発音しているわけでもありません。たいてい「正月、どこいく?」等、助詞を省略しながら、日常会話は成立しています。「どこへ? どこに?」「に?へ?」助詞の使い方や意味の違いがわからなかったら、どうするか。「ちよつとまってニコッ!」「どこ ニコッ 行く?」 教える方も習うほうもずいぶん楽になるでしょう。これが本当の実用日本語、円滑なコミュニケーション手段というの、ちよつと乱暴でしょうか?

きふプロ

インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが綴るKIFのアクティビティ

インターネットではもっとたくさん紹介しています。  
URL <http://kifblo.blog.ocn.ne.jp/blog/>



申裁旭  
シンジェウク

初めまして^^私の名前は「申裁旭(シンジェウク)」と申します。韓国から来ました。11月から1月まで国際交流会館でインターンシップをしています。趣味はテニスとビリヤードで特技はコンピューターです。日本語はまだまだ実力不足ですが、頑張っって勉強しています。インターンシップも半分過ぎましたが、熊本はいい所だと思います。帰国まであと2ヶ月、たくさんの日本人達と話したいので、会館に来て話しかけてください。^^



鄭銀珠  
ジョン ウンジュ

はじめまして^^私は韓国から来た鄭銀珠(ジョン ウンジュ)と申します。私は韓国の「龜尾(グミ)」から来ました。大学は大邱(テグ)にある嶺南理工大(ようなんりこうだいがく)でコンピューター学科です。専攻はシステムプログラミングです。私の将来の夢はウェブデザイナーになることです。きれいで素敵なホームページをデザインしてみたいです。インターンシップの合格が分かったのは今年の3月頃でしたが、日本に行く前に日本語をもっと勉強したくて出発を10月に延期しました。日本は初めてです。熊本に来られて嬉しいです。インターンシップで、たくさん日本語を使わないといけないのが、少し難しいです。頑張っって皆さんといい思い出を作っって行きたいです。どうぞよろしくお願ひします。♡

☆平成24年度賛助会員募集!!☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、Denkikan様のご協力により映画鑑賞料金の割引特典や当事業団主催講座の受講料会員割引特典もあります。

- ①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)

平成25年3月までの会員期間となります。

<入会のお申し込み・お問い合わせ>

一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局  
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館  
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783  
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

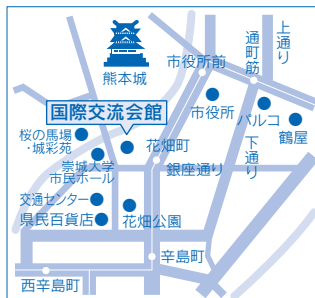
継続・新規ご加入ありがとうございました

(平成24年9月8日～12月26日現在にご加入いただいた皆様) (個人)50音順(敬称略)

石川 輝隆	重浦 照美	滝口 靖憲	Fujinaga Vanessa Assami
稲葉 秀造	白石 善吾	多々隈 京子	藤本 一二三
井上 紗恵	白石 伸彦	田邊 正広	松山 里美
岩永 邦子	白石 元美	田山 瑞恵	三池 絵美
ヴァッカ 佳代	白石 保子	鶴田 淳一	吉田 美香
梅本 春代	杉水 智咲	中嶋 真穂	吉村 明子
川邊 絢子	高島 和歌子	平井 聡	吉村 寿博
佐藤 明子	高野 美貴子	平川 和夏	
澤野 英樹	高濱 寿喜子	福本 幸子	

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています!  
(団体)50音順(敬称略)

- London Bridge International School
- 阿蘇ハイランド開発株式会社
- 医療法人社団 愛育会 福田病院
- 学校法人 君が淵学園 崇城大学
- 学校法人 鎮西学園
- 株式会社 北翔工業
- 株式会社 キャップ
- 株式会社 豊民百貨店
- 株式会社 サンカラ
- 株式会社 ニュースカイホテル
- 株式会社 まちづくり熊本
- 株式会社 JTB九州熊本支店
- 株式会社 熊本シティエフエム
- 九州産交ツーリズム(株)熊本交通センターホテル
- 九州農水株式会社
- 熊本液化石油ガス事業協同組合
- 熊本学園大学
- 熊本市地域婦人会連絡協議会
- 熊本城校の馬場リテール株式会社
- 熊本日独協会
- 熊本日米協会
- 国立大学法人 熊本大学
- コスギ不動産
- 財)熊本市駐車場公社
- 志成館高等学院
- 下田れい子お筆教室
- 西日本電信電話株式会社 熊本支店
- 西本会計事務所
- マルヒサ食品



- 阿蘇くまもと空港より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩 3分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩 3分

from Aso-Kumamoto Airport-  
45minutes by car  
from Kotsu Center-3minutes walk  
from "Hanabata-cho"  
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター

開館時間 午前9時～午後8時  
多文化共生オフィス(午前11時～午後6時)  
096-359-4995(直通)

休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

Civic Support Center for International Exchange and Cooperation  
Kumamoto City International Center  
Service Hours 9:00 a.m.-8:00 p.m.  
Multicultural affairs office (11:00a.m.～6:00p.m.)  
096-359-4995 (Dial-in)  
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec.29th～Jan3rd